

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立鹿島東小学校）

平成30年9月25日

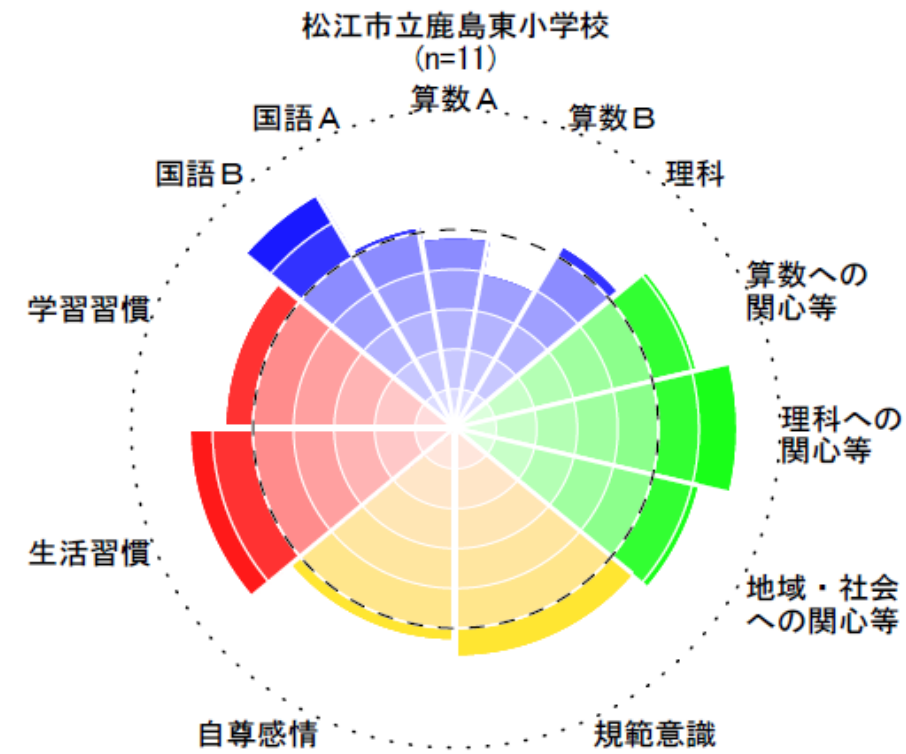
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果、●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○言葉そのものに着目して文章を読むことができる。 ●単語一つ一つを関連付けて読む習慣がないので、文脈として読むことが難しい。	・毎月実施しているチャレンジテストに向けて、日々の練習を奨励し、基礎学力の定着を図る。 ・文節で区切って読んだり、情景や気持ちを読み取ったりする学習を繰り返し、より深い読みができるようにしていく。
	B (活用)	○問題文を最後まで読んで、全体の見通しをもって各設問に答えることができる。 ●問題文から題意をとらえ、要旨をまとめることができない。	・自分の考えをまとめ、表現する時間を確保する。 ・目的に合わせた文章を書く学習を計画的に取り組んでいくようにする。
算数	A (基礎)	○「単位量あたりの計算」の学習に丁寧に取り組んだことで、全ての児童が正しく解答することができた。 ●「円周率はかけ算で使う」という思い込みが強く、円周率の意味を正しく理解できていない。	・毎月実施しているチャレンジテストに向けて、日々の練習を奨励し、基礎学力の定着を図る。 ・いろいろな問題に出合わせ、題意にあわせて正しく計算できるようにしていく。
	B (活用)	○かけ算のきまりや表の見方など、基礎的な知識・技能を使って、問題を解決することができる。 ●いろいろな情報をよみ取ることはできるが、それらを関連付けて考えることが難しい。	・児童同士が互いの考えを伝え合い、いろいろな考えに出合えるようにする。 ・授業や「ぐんぐんタイム」において、いろいろな情報を関連付けて考える問題に挑戦する機会を意図的に設定する。
理科		○乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを回路全体をよく見て正しく理解できている。 ●資料のよみ取りが十分でなく、複数の資料を関連付けて考えることが難しい。	・実験結果の予想を児童同士が伝え合い、多面的に分析し、考察に生かすしていく機会を意図的に設定する。 ・授業や「ぐんぐんタイム」において、複数の資料を関連付けて考える問題に取り組む。

(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果、●：課題)	対 策
○課題解決に向けて自ら考えたり、将来の夢や目標を持っていたりするなど、自分から進んで考えることができる児童が多くいる。 ●話し合う活動の中で、友達の考えを聞いて、自分の考えをさらに深めたり広げたりすることが十分できていないと感じている児童が複数いる。	・話し合う前に、考えをまとめる時間を設定し、自分の考えを持って話し合えるようにする。 ・分からないことや間違いを取りあげる学習を大切に、ともに考えることの楽しさや重要性に気付けるように授業を構成する。

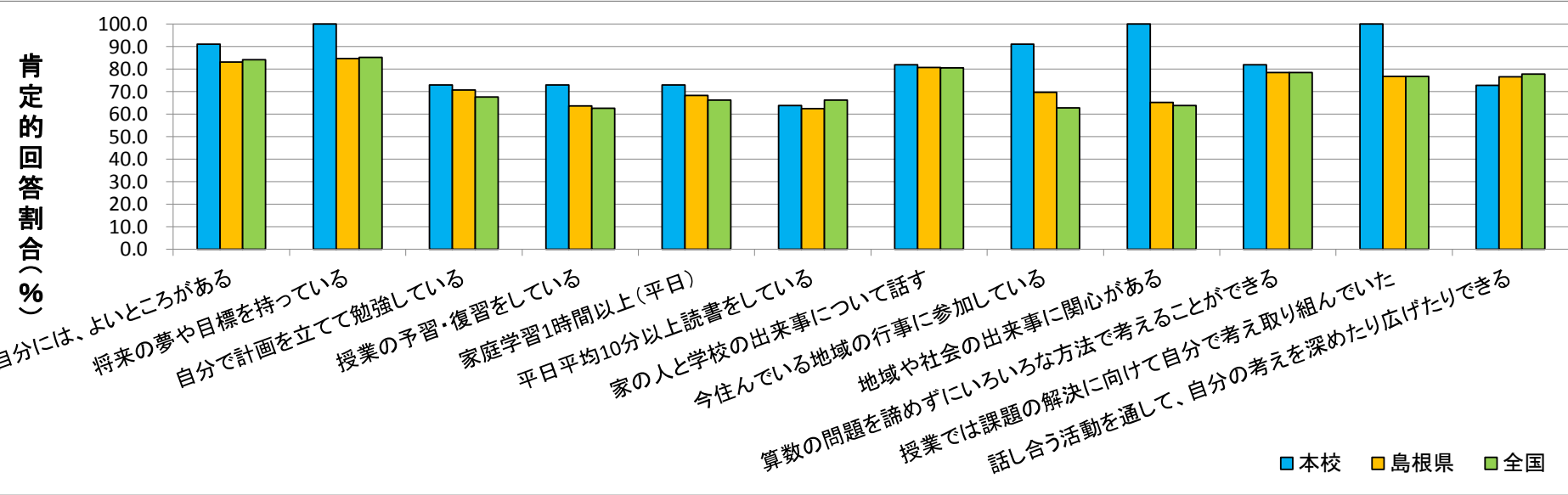
(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・生活習慣において、昨年度から実施している体づくりや姿勢をよくする取組をさらに推進していくことで、学ぶ姿勢の土台をつくる。
・調査に対して、「時間が足りなかった」と回答する児童が今年度も多かったため、決められた時間内に課題を解決する学習活動をいろいろな場面で設定する。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	71	70	68	70.7
	B	69	57	55	54.7
算数	A	61	62	61	63.5
	B	41	50	49	51.5
理科		62	59	58	60.3

受検者数 11 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。